

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木・3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生命の科学（痛み） Life Sciences (Pain)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/ オフィスアワー 担当教員: 戸田一雄 / Eメールアドレス: k-toda@Nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 歯学部 A 棟4階生体情報科学分野 / オフィスアワー: 火曜日 17:00-18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	戸田一雄, ゼレドジョージ, 植田弘師, 井上 誠, 境 徹也		
授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標			
授業のねらい: 痛みは、人類にとって永年にわたり戦いの相手となってきた。痛みは苦痛であり戦いに疲れて神経までも冒される人も数多くいる。本講義では痛みのおこるメカニズム、痛みを抑える薬、痛みを抑える手段等について理解し、いつ襲われるかわからない痛みと戦う戦略を考えてみる 授業方法: スライド、プリント等を用い、視覚的に印象付ける講義とする。 授業到達目標: 痛みに関する科学的な考察ができ、痛みが生じた時に、適切な医学的対処法ができるようになる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
授業内容(概要) 組織や神経を損傷するような刺激がヒトに加わると痛みの感覚が生じる。これが痛みの基本的概念であり、ヒトでしか知覚できない。動物は痛みが生じるかどうかは不明であり、侵害受容性応答のみが生じる。痛みは、ギリシャ時代では、痛みは感覚として独立しておらず、ただ不快感として吐き気やむかつきなど他の不快な感じとともにまとめられていたものである。その後、皮膚に特異的に痛みを生じる点、すなわち、痛点があることが発見され、これを侵害受容器と名づけた。侵害受容器が興奮すれば痛みが生じるが、そのような刺激がない場合でも痛みを訴えることがある。痛みの不思議さである。本講義の目的は以上のような不可解な痛みをできるだけやさしく解説することにある。この講義により痛みに対する知識が深まることを期待したい。			
第1講: 痛みの生理: 痛みはどのようにして生じるか、痛みがあるときの我々の反応と行動について理解することを目的とする。			
第1回 4・12 担当 戸田			
第2回 4・19 担当 戸田			
第3回 4・26 担当 戸田			
第4回 5・10 担当 ゼレド			
第5回 5・17 担当 ゼレド(小テストを実施する)			
第2講: 痛みの薬理: 痛みの物質的要素、すなわち痛みと鎮痛を物質面から理解する。最近の研究を積極的に取り入れて講義する。			
第6回 5・24 担当 植田、井上			
第7回 6・07 担当 植田、井上			
第8回 6・14 担当 植田、井上			
第9回 6・21 担当 植田、井上			
第10回 6・28 担当 植田、井上 (小テストを実施する)			
第3講: 痛みの治療: 痛みの治療法の発展、および最新の治療法、ペインクリニックに関して理解することを目的とする。			
第11回 7・05 担当 境			
第12回 7・12 担当 境			
第13回 7・19 担当 境			
第14回 7・26 担当 境			
第15回 8・02 担当 境 (小テストを実施する)			
キーワード	痛み、鎮痛、侵害受容、ペインクリニック		
教科書・教材・参考書	「やさしい 痛み学」(植田弘師、戸田一雄著) ブレーン出版 (東京)刊を教科書として用いる。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度および小テストで評価する。授業への貢献度: 40%、小テスト: 60%		
受講要件(履修条件)	やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、担当教員と相談すること。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			